



学生数/約22200人
 学部/医、薬、経済、法、文、外国語、教育、理工、医療技術、福岡医療技術
 大学院/医学、薬学、経済学、法学、文学、外国語、理工学、医療技術学、保健学、教職、公衆衛生学
 THE世界大学ランキング2022/801-1000位、同日本版2021/121-130位、同インバウトランキング2021/401-600位

CASE STUDY

キャリア形成につながるグローバル化 →国内キャンパスでの“普通”の国際交流を推進

帝京大学

2万人超の学生を抱える総合大学が、より多くの学生にグローバル体験を提供すべく動き出している。留学生との交流を「普通のこと」にするための仕掛けとは。



理事長 学長
沖永 佳史
 おきながよしひと ●1996年慶應義塾大学理工学部を卒業後、同大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。学校法人沖永学園理事長などを経て、2002年学校法人帝京大学理事長、帝京大学学長に就任。2009年帝京大学短期大学学長。

留学の有無を問わない 学部生の国際性向上

「実学」「国際性」「開放性」の教育指針が示すように、本学は開学以来、異文化理解の学修・体験を重視してきました。1980年代は研究面での国際交流を進め、1990年代の大学設置基準の大綱以降は、教育の国際化を推進するため、海外拠点の設置や、欧米を中心とした学生の海外派遣に積極的に取り組んできました。そして今、少子高齢化をはじめさまざまな社会課題がある中、学生が自らの指針を定め、将来を切り開くうえで、多様な体験がより強く求められています。そのため、2016年の創立50周年に合わせて、アジアやオセアニア、中南米を中心に海外派遣・留学生の受け入れを強化し、多様性の向上を図ってきました。その結果、20

10年度に約500人だった留学生は、2020年度には1000人を突破しています。

国内のキャンパスにおける国際交流の活性化にも、こだわりを持って取り組んできました。これからの日本を背負う人材を育成するには、留学する・しないにかかわらず、外国人と「普通」に交流することが欠かせません。互いの文化を学ぶことは、多様性の理解と同時に共通の倫理基盤を形成し、国境や文化の違いを越えたネットワークづくりに大いに役立つからです。学部生のときに文化的な交流を通してグローバルな視野で考える姿勢を身に付けさせたい。その思いで、2016年に語学学習専用施設「Telaco」を、2021年4月には日本人学生と留学生の交流施設「OUCHI COMMONS」を八王子キャンパスに開設しました。これらの施設では、日本人学生と留学生がお互いに学び合う交流を行っています。コロナ禍による渡航制限で海外派遣は止めざるを得ませんでした。が、キャンパス内の交流は可能な限り継続しました。約800人の留学生が日本にとどまっていたこともあり、2020年6月より段階的に対面授業を再開してから、交流施設もできる限り開場し

ました。オンラインでも英会話の練習の場を設けるなど、積極的に交流機会の創出を図り、国際交流の勢いを止めない工夫を重ねています。

グローバルとキャリアの 部署間の連携を強化

キャンパス内でのグローバル体験をキャリア形成に生かすべく、国際化推進室や国際交流センターなどの国際部門とキャリアサポートセンターとの連携による取り組みも進められています。その一例が、ベトナムでの海外インターンシップです。

一方、留学生に対するキャリア教育プログラムの提供も行っています。人口が減少しつつある日本が活力を維持するには、外国人の受け入れ、共生は不可欠です。グローバルな教育機関であろうとするならば、外国人が日本社会になじめるように「橋渡し」することも、大学の責務でしょう。

2022年の4月には、日本人学生100人、留学生50人の学生から成る外国語学部国際日本学科が誕生します。カリキュラムの軸は、両者の協働学修です。学内の「日常的な交流」が、より一層活性化されるものと期待しています。

*1 Teikyo Language Commons (テラコ)
 *2 2021年4月に学長直下に設置。主にキャンパスごとに行われているグローバル施策をまとめ、トップによるグローバル化の方針を学内に発信する役割を持つ

ポストコロナに向けての取り組み

- ▶ 留学支援や留学生との交流に、オンラインを活用
- ▶ コロナ禍前に1000人を突破した留学生の数と質を維持
- ▶ コロナ禍前から推進してきた、国内のキャンパスにおける国際交流の勢いを止めない

BEFOREコロナ

▶ アウトバウンド施策の整備

外国語学部の全員留学制度、経済学部国際経済学科の東南アジアでの研修制度など、海外留学を推奨。

▶ インバウンドの強化

「留学生1000人計画」を遂行。日本に近く、著しい成長を遂げているが、日本人にとってまだ身近になっていない中国や東南アジアからの留学生を中心に受け入れを拡大し、キャンパスの多様なグローバル化を推進。

▶ 国際交流の日常化

留学生の受け入れ拡大、Telaco設置などにより、キャンパス内の国際交流を進めた。

AFTERコロナ

▶ 留学支援へのオンライン活用

現地留学の再開を基本とするが、オンライン活用も継続。海外協定校とのオンラインプログラムを実施。

▶ 国際交流の質の向上

国際学生寮の増設など、受け入れ拡大のための環境整備を行いつつ、国際交流施設の利用促進を図るなど、日本人学生との交流、協働による相乗効果を高め、語学力向上や異文化理解を深める施策を展開。

▶ 日常的な国際交流を止めない

安全に配慮したうえで対面での交流機会を確保し、施設の利用も継続。オンラインでの交流機会も多数設ける。

注目! 「文化」をキーに、外国人と日本人の交流を活性化

八王子、宇都宮両キャンパス近辺の各1施設に加え、2022年には八王子に2つ目の国際学生寮がオープンする帝京大学。3施設で計397人の受け入れが可能となり、その分、日本人との交流の機会も増えることになる。

八王子キャンパスにある「Telaco」は、ネイティブ教員が常駐し、楽しみながら語学力向上を図れる施設。ラウンジは留学生と気楽に話せる交流スペースになっている。さまざまな国の料理をつくりながら交流し、料理を通じて文化を学ぶ工夫をしており、利用者数は年間延べ2万人に上る。

他方、2021年に同キャンパスにオープンした「OUCHI COMMONS」(オウチコモンズ)は、日本人学生と留学生の交流スペース。コンシェルジュ(受付)として留学生と日本人学生を配置し、交流促進のきっかけとしている。日本家屋をコンセプトとしたフロア内には、畳の「茶室エリア」や掘りごたつ風の「縁側エリア」があり、交流しながらつるぎる造りになっている。多数開かれているイベントの中には、日本語による交流のほか、日本文化を体験できる「日本語ラウンジ」もあり、英語に自信がない学生でも留学生と触れ合える。

「留学先として本学を選んでもらうには、おもしろいことをやっている大学だと思ってもらうことが一番。単に日本“で”学ぶのではなく、日本人学生と刺激を与え合いながら日本“を”学ぶ大学だと知ってほしい」と沖永学長は語る。

▶ 国際学生寮では、日本人学生のレジデント・アシスタントの企画でさまざまな交流イベントが開かれる。



◀ Telacoに設けられた「World Kitchen」は、料理を通して国際交流を図るスペース。

▶ 「茶室エリア」や「縁側エリア」で、留学生が日本文化を体感できるOUCHI COMMONS。

